

平成27年度全国学力・学習状況調査に係る 厚木市立小・中学校の調査結果について

市立小学校6学年及び中学校3学年を対象に、平成27年4月21日に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。教育委員会では、今回の分析結果を踏まえ教育施策の成果や課題等を把握・検証し、今後の教育施策に反映するとともに、市立各小・中学校においては、校長のリーダーシップのもと、各教員が指導内容・方法の改善を進めてまいります。

1 調査の概要について

(1) 調査の対象学年 小学校第6学年及び中学校第3学年

(2) 調査の内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

・主として「知識」に関する問題 国語A、算数A・数学A

・主として「活用」に関する問題 国語B、算数B・数学B

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う

イ 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

(3) 調査日 平成27年4月21日（火）

(4) 調査に参加した児童・生徒数

【小学校】

国語A	国語B	算数A	算数B	理科	児童質問紙
2,015人	2,015人	2,015人	2,015人	2,014人	2,014人

【中学校】

国語A	国語B	数学A	数学B	理科	生徒質問紙
1,873人	1,874人	1,874人	1,878人	1,879人	1,877人

(参考) 全国・県・市の公立学校の参加校数

	小学校	中学校
全 国	20,033校	9,731校
神奈川県	851校	409校
厚木市	23校	13校

2 教科に関する調査結果について

【平均正答率】

(単位 %))

	小学校					中学校				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
全 国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
神奈川県	67.9	64.3	74.0	44.8	60.4	76.0	66.5	65.0	43.3	52.8
厚 木 市	67.5	63.5	72.4	41.7	59.6	75.1	65.4	63.5	41.8	52.4

(1) 小学校国語の主な結果について

◇漢字を正しく読むことは、相当数の児童ができています。

◇文章と図とを関係付けて読む設問において、中心となる語や文を捉えることは、相当数の児童ができています。

◆「引用」とは、文章の一節から文や語句などを引いてくると理解できていない児童が多く見られます。

◆取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題があります。

(2) 小学校算数の主な結果について

◇繰り上がりのある2桁の足し算は、相当数の児童ができています。

◇式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することは、相当数の児童ができています。

◆与えられた情報から割合の関係を使って、基準量を求めることに課題があります。

◆分割された2つの図形の面積が等しくなる理由を論理的に伝えることに課題があります。

(3) 小学校理科の主な結果について

◇水蒸気は水が気体になったものであることを理解し、正しい説明を選択することは相当数の児童ができています。

◇打ち水の効果についてグラフからその内容を考察し、正しい説明を選択することは相当数の児童ができています。

◆顕微鏡の適切な操作方法が理解できていない児童が多く見られます。

◆砂糖を溶かした水の温度の変化に伴って、溶けきれなくなって出てくる砂糖の量について、グラフからその理由を分析して書くことに課題があります。

(4) 中学校国語の主な結果について

◇漢字を正しく読むことは、相当数の生徒ができています。

◇物語の登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することは、相当数の生徒ができています。

ています。

- ◆複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことに課題があります。
- ◆文学的な文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があります。

(5) 中学校数学の主な結果について

- ◇比の意味、一次式の引き算の計算、同位角の意味を理解することは、相当数の生徒ができています。
- ◇直角三角形の斜辺を軸に回転して作られる立体的な図形を理解すること、与えられた投影図から立体的な図形を読み取ることは、相当数の生徒ができています。
- ◆数量の関係を的確に捉え、文字式に表すことに課題があります。
- ◆日常的な事柄や場面において必要な情報を適切に取り出し、数量等の関係や結果を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。

(6) 中学校理科の主な結果について

- ◇天気記号から風力を読み取ることは、相当数の生徒ができています。
- ◆雲のでき方について、水の状態変化と関連付けて正しく説明することに課題があります。

3 児童・生徒質問紙調査の結果について

教科の正答率が高い児童・生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する傾向が高い設問は、主に次のとおりです。

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

- ・小学5年生（中学2年生）までの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
- ・小学5年生（中学2年生）までの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。
- ・国語の勉強は大切だと思う。
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ・解答を文章で書く問題について、あきらめずに解答しようと努力した。
- ・算数（数学）の勉強は大切だと思う。
- ・算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題について、あきらめずに解答しようと努力した。

- ・算数（数学）の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

(2) 家庭学習・学習時間等

- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。
- ・ふだん（月～金曜日）、携帯電話で通話やメール、インターネットをしている時間が1日当たり1時間未満である。
- ・家で、学校の宿題をしている。

(3) 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション

- ・毎日、朝食を食べている。
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- ・家の人や、授業参観や運動会などの学校の行事に来る。

(4) 自尊感情、規範意識 等

- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
- ・学校のきまり・規則を守っている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・学校に行くのは楽しいと思う。
- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。

4 児童・生徒質問紙調査の結果から見える今後の取組の重点

- (1) 「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答する児童・生徒の割合が高く、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童の割合も増加傾向にあります。

しかし、一方では、「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童・生徒の割合が、ここ数年減少している傾向も見られます。

各学校においては、引き続き、児童・生徒の自尊感情を高めるような指導を充実させることが大切です。

- (2) 1日2時間以上テレビゲームをする児童・生徒の割合が、全国平均と比べて高い傾向が見られます。

また、1日1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする児童・生徒の割合は、昨年と比べて減少してはいるものの、依然として全国平均を大きく上回っている状況です。

各学校においては、保護者との連携・協力を図り、情報機器の正しい利用の仕方や適切な家庭学習の習慣が身に付くような働きかけをより一層充実させることが重要です。

- (3) 勉強の大切さや将来への必要性を感じている児童・生徒の割合は、大変高い結果が示されています。

しかし、全国との比較で見るとやや下回っている状況にあります。

各学校においては、これからも引き続き、基礎学力の向上と思考力・判断力・表現力等の育成を重視し、児童・生徒の主体的・協働的な学習活動の充実を図ることが必要です。